愛労連

愛知県労働組合総連合
名古屋市中区新栄一丁目22－18
ＴＥＬ　052－262－1377
発行人　伊　藤　むつを
11月号　1994年11月30日

95国民春闘学習討論集会

とき　12月10（土）～11日（日）
13：00　　12：00
ところ　愛知県労働者研修センター

県知事選挙予定候補者 徳田 秋おさむさんと 座談会
自分のできることは精一杯！

“みんなの要求”で革新県政の実現を！

―十一月十四日、県知事選挙予定候補者の徳田秋さんとの座談会を本紙企画で行いました。―

決意を固め合いガッチリ握手

くらしのドクター 徳田さん

〈武藤〉さっそくですが、徳田さんはこれまで、医療生協の医師として、地域の住民のみなさんと関わって来られたと思いますが、どんなことを大切にされてきましたか。

〈徳田〉私は、名古屋大学医学部を卒業して、大学病院を経て医療生協に赴任し、多くの患者さんと接してきました。みなさん、随分いろんなことで悩んでみえるんですね。しかもそれが、ご本人の責任ではなくて、どう考えても政治が解決しなければならないような問題で悩んでみえることがわかりました。キチンと政治の手が届いていないわけです。「何とかしたい、何とかしなければ」という思いを三十年ずっといだいてきました。

〈見崎〉今回の知事選は、徳田さんに比較的早くご決断いただいて、各界でも期待が広がりつつあるんですが…。

〈徳田〉みなさんに今回は早いと言われるんですが、私は公平にみて決して早いとは思わないんです。私は、無名の新人ですし、向こうは国体だなんだとマスコミに登場しているわけですからね。

また、この十年間本当に国民・県民にとって悪い政治が急ピッチで行われています。危機を感じていると声をあげないといけないんじゃないかと強く思っていました。そして、いろんな人がいるが、私で本当にいいなら、という思いで決断をしました。

若い人たちにみつめてほしい

〈武藤〉徳田さんは、平和運動や核兵器廃絶運動でも力をそそいでこられたとうかがったんですが。

〈徳田〉被爆者問題では私も、だいぶ県交渉をやりました。当時、桑原県政でしたが、それなりに血の通った者どおしのやりとりがあったように思います。しかし、この三十年で本当に県政の体質も変わったと思います。それは先日、入院給食の有料化に関しての交渉だったんですが、誠意のない押問答の最中に「それでは、時間ですから」と一斉に引き上げたのには、本当にあっけにとられました。こういった県政の体質も変えていかなければなりませんね。

〈高橋〉僕は、不況の問題が深刻だと思っています。僕自身もここ二、三年は給料が上がりませんし、そのうえ年金や消費税などの影響で実際は賃下げという状況です。トヨタが中国への進出を決めた途端に下請けは新卒の就職をカットしてしまいましたし、今後のことを考えると本当に不安なんですが。

〈徳田〉まず、基本的な認識として、なぜ、政治がゆがんできたのかという問題だと思います。それは、大企業・財界の政治への横暴な介入にあります。「企業は社会的存在」とよく言われますが「社会的責任の追求」こそが必要です。大企業は利潤の追求のためには、労働者も下請けも切り捨てて海外に出ていってしまう。これでは「反社会的行為」です。こうしたことにはキチンと規制をしていく必要があると思います。

もう一つ私が心配しているのは、海外へ出ていった大企業が、さらに悪いことをやっているということです。マレーシアでの放射性廃棄物のたれ流しなどたくさんあります。今回、自衛隊法が改悪され、政府専用機が在外邦人救出といって海外へ出て行けるようになりましが、一番やりたいのは何かというと、日本企業が海外で無茶をゴリ押ししているもとで、現地の人たちとの関係が険悪になったときに、軍隊を出して押さえつけるということなんですね。愛知の産業空洞化・海外進出・自衛隊の海外派兵、みんなつながっているわけです。こういうことを若い人たちに見つめて欲しいと思います。

市民に開かれた県政に

〈武藤〉福祉の面では、愛知県はいつも、ワースト5ぐらいに入っています。私たちが、何を求めているのかを聞いていただける県政をと思っていますが。

〈徳田〉現在の愛知県は、福祉の問題で見てみますと、子供さんの問題から、高齢者の方のサービスまで、どれをとっても全国最低クラスなのに、一方では、工業出荷額全国第一位という状態が、今の県政を象徴していると思います。

本来、地方自治というのは、住民のことは住民が決めるということだと思います。国政が住民にとって不利益なものならば、住民を守っていく立場で施策を行っていくことが地方自治体の役目だと思います。

公平・中立が行政の基本

〈見崎〉現在、県の労働行政は大企業労働組合の「連合」に偏重していて、地方労働委員会の労働者委員の選任や、各種審議会・委員会の委員選任がすべて「連合」に独占され続けています。こうした「気にいらん者は全部排除」するという問題をなんとかして欲しいというのが私たちの願いなんですが。

〈徳田〉そうです。公平・中立が行政をすすめる基本ですからね。

やさしく勇気いっぱいの徳田さん

要求を世論にし、争点へ

〈高橋〉青年は、いろんな要求をもっているんです。しかし、この要求を実現させるためにどうしたらいいかわからない青年が非常に多いんですね。

〈武藤〉この間、入院給食の有料化の反対や、年金改悪の阻止のため様々なかたちで運動してきましたが、結果として入院給食の有料化も年金も改悪されてしまったし、さらに消費税もという状況になっていて「やっぱりダメなんじゃないか」というあきらめと「どう頑張ればいいのか」という気持ちが交錯していると思うんです。

〈徳田〉私も革新県政の会も、当然この知事選挙で勝利するために頑張るわけです。ただ、勝ち負けだけではないと思うんです。このたたかいのなかで県民本位の政策をどんどん訴えて、世論にし争点にしていく、このなかで相手の候補が県民の要求を無視できない状況へ追い込んでいくことが重要なことだと思います。

〈見崎〉最後に、みなさんから決意や感想をどうぞ。

〈武藤〉日常的に元気がなくなりがちなんですが、ゼロか百かと考えるんではなく、物事を正しく見て、自分達の到達点はどこにあるのか、どうひろがるのかを考えて、組合運動でも知事選に向けても、職場や組合の仲間によびかけていきたいと思います。

〈高橋〉「僕はこう思うから、こうしたいから君も一緒に」と訴えていかなければと思いました。絶好の要求実現の機会ですから、本当にたくさんの要求を集め、それを力にがんばりたいと思います。

〈見崎〉私は、徳田さんを知ってもらうために、一人でも多くの人に話を聞いてもらいたいと思いました。

また、人間を大事にみる県政をみんなでつくろうということを、私たち自身の言葉でどれだけたくさんの人たちに語っていけるかが大事だなあと思いましたし、そういうあゆみが私たちのまわりを変えていくんだと決意してがんばりたいと思います。

〈徳田〉私は、決して子や孫たちから感心してもらおうとまでは思いませんが、しかし「あいつはあいつなりに頑張ったじゃないか」という生き方はつらぬきたいと思っています。すなわち、どんな時でも自分のできることは精一杯やるということです。みなさんと力いっぱい頑張っていきたいと思います。

座談会に参加してくださったみなさん。
見崎　徳弘さん
愛労連副議長・愛高教副委員長
高橋　誠さん
愛労連青年協議長・ＪＭＩＵ・藤栄精密分会
武藤　晴美さん
医労連青年委員会副部長・みなと医生協労組

村山内閣消費税アップまでも強行

主人公は国民！悪政に終止符を

世論と運動広げ草の根の力結集へ

年金大改悪、小選挙区制区割り法など暴挙に暴挙を重ね続けている村山内閣は、十一月二五日、十分な審議もつくさないままみずからの公約を投げ捨てて、国民の多数が反対する消費税増税法を強行成立させました。もはや、暴挙どころか暴走としか言い様がありません。あらゆるルールを無視した審議で、私たち国民にとって重大な年金の大改悪や消費税の増税を強行したことは絶対に許せません。

いまこそ、世論と運動を広げ草の根の力を結集し、自民党村山内閣を即時退陣に追込み、日本の政治を国民に取り戻しましょう。

11・13　10万人の怒りと決意

全国から、村山内閣の悪政に対する国民の怒りが大結集した11・13国民大集会は、東京の代々木公園で開かれ、一〇万人をこえる人々が会場をうめつくしました。愛知からも、新幹線やバスなどで約一一〇〇人が参加しました。

集会には、一二五万人分の消費税反対署名などが持ちよられ、各界の代表が壇上から決意表明し、村山内閣の悪政を糾弾するシュプレヒコールが延々と響きわたりました。

11・25　採決の強行糾弾

消費税の増税が強行された二五日の夕方、名古屋市中区の若宮大通公園で開かれた11・25県民集会には「村山内閣は即時退陣せよ」と一二〇〇人の人々がかけつけました。

あいさつにたった井上利雄・愛労連議長は「国会は異常だ。村山内閣が一日延びれば、それだけ国民の暮しが破壊される。悪政に終止符をうつために力を結集しよう」と呼びかけました。

女性の願いは革新県政で

愛労連婦人協は、十一月一八日、名古屋市中区の女性会館で単産代表者会議を開催しました。婦人協が、単産代表者会議を開催するのは初めてのことです。

今回は、間近にせまった来年の二月投票の知事選挙へのとりくみに議題をしぼって行われ、会場には知事選予定候補者の徳田さんも参加され、熱心な討論がされ、「はたらく女性の願いは革新県政の実現で」と決意を固め合いました。

みんなが主人公がキーワード

来年の八月に静岡県浜松市で開催される、働く青年の交流祭典「95サマーカーニバルin浜松」の東海北陸ブロックプレ集会が十一月一九日から二〇日にかけて、開催地の浜松市砂川公民館で開催されました。愛知からは各労働組合の青年部の役員ら一〇名が参加しました。

全体として、三時間をこえる分散討論や自主交流などを通じてサマーカーニバルにむけた意志統一がはかられるとりくみとなりました。全国的に青年部活動が停滞しているもとで、祭典にむけての上りの運動や祭典後の下りの運動が重要であり参加組織や交通手段の確保だけで終わるのではなく、参加する仲間が「主人公」になるとりくみの重要さが確認されました。

広大な会場を下見して、いろいろな夢やイメージがひろがりました

みんなの要求みんなで実現

人間らしく生き、働くために

第42回　栄総行動

11・16 愛知争議総行動

愛知からすべての争議なくそうと共同行動

愛知からすべての争議をなくそうと行われた11・16愛知争議総行動は第四二回目を迎える栄総行動と共同でとりくまれました。

名古屋市内を中心に栄総行動は消費税やコメなどの政治要求や争議の解決、名鉄のサービス向上など市民要求実現のために各官庁や企業に要請行動。尾東地域での日立争議・JMIUアクロス・医労連愛治労組の行動には、確定闘争のなか瀬戸市職労など五〇人余が参加。それぞれの争議を単独でなく、面でたたかう力強さを再確認する行動でした。

中電包囲デモには東海5県から1000人がかけつけた

労働相談「110番」

12月12日・13日・14日

16：00～20：00まで

☎052－251－9439

ぜひご相談を！

マレーシア・タイ調査団 1994.10.29～11.4

vol.1 調査報告

国民の「国づくり」へのエネルギー感じ

愛労連事務局長　阿部　精六

今回のマレーシア・タイ調査は、愛労連・愛商連・労問研が、不況打開をめざす共同行動を積み重ねる中で、産業空洞化の実態について、受け入れ国（アジア地域）の状況を正確につかむ必要性から全労連が六月に開催した「労働者の権利・人権と多国籍企業の民主的規制」［アジア・太平洋労働組合シンポ］成果を踏まえ計画されました。井上利雄・愛労連議長を団長に、労働者一二名・業者七名・研究者五名の総計二四名で編成し、十月二九日から十一月一日・マレーシア、十一月二日から四日・タイという日程で実施しました。

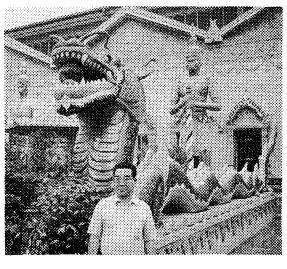
調査内容は、日系企業や工業団地の視察、労働組合との交流、文化や国民生活に可能な限り触れたいなど、少し欲張った内容となりましたが、両国の労働組合・労働者の熱烈な歓迎に励まされ、調査団の奮闘で全日程を意義深く終えることができました。

いずれは日本のように「空洞化」

労働組合との交流では、マレーシアの工業団地にある組合事務所で、進出日系企業労組役員など十一名と懇談、政府の労働組合規制やイエローユニオン（労使強調）の企業組合が育成されるもとで活動している状況や、労働力不足でインドネシアやバングラデシュから労働者が入り労働条件を引き下げる要因になっていること。いずれ日本と同じように「空洞化」問題が起きることを懸念していることなど率直な意見交換がされました。

アメとムチの日本企業

タイでは、タイ労働会議・レストラン労組・警察官労組役員など一〇名と懇談。日系企業は、韓国や台湾の企業と違いタイの法律や国民性を理解し最賃制・病気・ケガなどを保障してくれるとの評価の反面、社長が日本では部長か係長位の人なので経営能力に欠けることや、企業や現地のスタッフが下からの意見を伝えなかったり労働条件を押さえるなど権力を振りかざすことが多いことなどの意見がだされた。

また、市役所訪問、屋台・水上マーケットなどを見学し、両国とも多国籍企業の誘致による経済成長と生活環境や社会保障の遅れなどのアンバランスのもとでも、労働者・国民の「国づくり」へのエネルギーを感じました。

ひきつづき次回からは①経済・産業、②労働者・労働組合、③国民生活、④研究者からの報告の四回にわたり掲載します。